



平成28年10月 静岡県水産技術研究所伊豆分場ニュース

サメ類による漁業被害とその対策



洋上でツナショッカーの動作確認する漁業者

伊豆の漁業の代表格であるキンメダイ漁では、サメ類による漁業被害が発生していて漁業者の悩みの種となっています。サメ類は、仕掛けにかかったキンメダイを狙い、引き上げる途中で食べてしまいます。当場ではこの問題を普及課題にあげ対策に取り組んでいます。

キンメダイを食べに来たサメ類を釣り上げてしまうことが有効な手段であると考えられますが、サメ類は大型で凶暴なので釣り上げた時に危険を伴います。そこで、電気を使って水中で大型魚の動きを止める「ツナショッカー」という機器を擁している漁船を9月28日に用船し下田沖で安全にサメを捕獲する試験を行ないました。試験は今後も継続していきます。

イセエビ礁の管理と効果

イセエビを対象とした漁場造成が県の事業として行われています。平成8年度に造成された下田市白浜沖のイセエビ礁では、今漁期の操業前に潜水による礁の状況確認、操業区域の浮標設置が行われました。イセエビ礁にはカジメ群落が形成されており埋没や洗掘も無く、生息場としては良好でした。また、造成した漁場へのイセエビの集まり具合や漁獲に対する効果を把握する刺網試験が行われました。



カジメが着生しているイセエビ礁

解説：イセエビ：岩礁に住む大型のエビ。刺網で漁獲される。県漁獲量は100トンを超える。乱獲を避けるために県規則で操業期間や制限体長が定められている。

キンメダイ種苗生産 その2

この夏、当場ではキンメダイの栽培漁業を目標に、種苗生産技術開発に取り組んできました。7月9日から9月10日までに4回親魚の捕獲を実施して人工授精を実施し、内3回仔魚がふ化しました。仔魚の生残期間は最高で18日間まで伸びました。写真はふ化して10日目のキンメダイです。腹側に黒く見える腹鰭が極端に長いのが特徴で、水槽ではこれを飛行機のように拡げて体を水平に保つ姿が観察できました。放流できる大きさまで育てるには多くの問題が残されていますが、今回の結果を整理して来シーズンに備えます。



10月の予定 ●稲取地区でテングサ場の保全を目的とした水産多面的機能発揮対策事業が始まります。 ●県東部漁業士と県行政との意見交換会が14日に東伊豆町で行われます。 ●しずおか食セレクションの審査会が19日に行われます。 ●太平洋中区栽培漁業検討会が20日に静岡市で開催されます。

連絡先：静岡県水産技術研究所伊豆分場 〒415-0012 下田市白浜251-1 電話：0558-22-0835
アドレス：suigi-izu@pref.shizuoka.lg.jp ホームページ：<http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/izu>
当場には、自由に見学できる展示施設があります。皆様のお越しをお待ちしています。